



ロック土耕法によるハウレンソウ栽培

開発技術の現場定着に当って

専門技術員は現場における技術問題を試験研究機関へつなぐとともに開発された技術を現場に定着させるための調査研究や関係事業への提案などを行っている。また、普及員研修などの場を通じて、新しい開発技術を出来るだけ早く現場に定着させるための情報提供を行っている。

このような専門技術員の仕事をしていて感じることは、開発技術を現場に普及定着させるには、その技術を組み立てている手法にあわせて、試験が行われた環境や条件を的確に現場に伝えることが重要であるということである。

身近な例を挙げると、最近園芸研究部で開発されたトルコギキョウの直播栽培技術は、株が高温期を経過したにもかかわらずロゼット化せず、品質の良い切り花を安定して生産する優れた技術である。そして、この結果を支えているのは長く伸びた直根の力によるところが大きいと理解している。

この試験を行っている圃場は土壌の深さ・保肥力・保水力等の培地条件が極めて優れていることが伺われる。この技術を現場に伝えるには播種の方法や仕立て法などの手法と共に、あれだけの直根を伸ばす土壌条件を現場に伝え、そのような土壌条件を持つ場所を対象に普及させねばならない。

園芸作物の場合は栽培面積が広くないので、新技術の導入を希望する経営体はその気になれば基盤の整備は容易に行うことが出来る。

技術は開発された環境や条件に近い地域や場所に普及させないと定着しにくい。そうでない所には条件整備を行った上で技術の導入を図る必要がある。

苦勞して開発された技術が出来るだけ早く、また効率的に現場に普及するように、これからも努めたいと思っている。

主任専門技術員 船越建明

散布時間はわずかに3分//

極小型スプリンクラーによる病害虫防除

傾斜地カンキツ園の病害虫防除は、動力噴霧機による手散布で行われています。そのため、薬剤が直接人体にかかるだけでなく、管理作業の中でも最もきつく、高齢者が栽培を断念する最も大きな要因になっています。

果樹研究所では、農業を魅力あるものにするための研究の一環として『快適な栽培管理』に取り組んでいます。極小型スプリンクラーによる防除方式の開発もその一つです。

写真は、ヘッド（スプリンクラー吐き出し口）の種類や配置を工夫して、慣行手散布と同等の防除効果をあげる試験をしているところです。

この方法によれば、慣行手散布法(通常8回)に比べてダニ剤の散布を1回追加するだけで同等の防除効果をあげることができ、10a当たりの散布時間は従来の2時間/回に対して、わずか3分/回で済むことを明らかにしました。



なお、この防除で使用したヘッド数は10a当たり樹上21個、中間64個で、設置経費は約40万円です。

(常緑果樹研究室)

着色良好、多収、うどんこ病に強い//

イチゴの新品種「レッドパール」

県内のイチゴの主要品種である「とよのか」は低温期の着色不良やうどんこ病の多発等により収量が低下し問題となっています。そのため、着色良好で、うどんこ病に強く、多収性の品種が強く要望されています。

品種試験の結果、「レッドパール」を選定しました。「とよのか」と比較した特性は次の通りです。

- ◎花芽分化は3日程度遅く、収穫開始は10～14日程度遅い。
- ◎着色は低温期でもよいが、高温期には着色過多になり黒ずみ易いので、収穫期に注意を要する。
- ◎果実が硬く、日持ちがよく、多収である。
- ◎低温期には糖度が高く、食味は良好であるが、4月頃に一時食味が劣ることがある。
- ◎うどんこ病に強い。

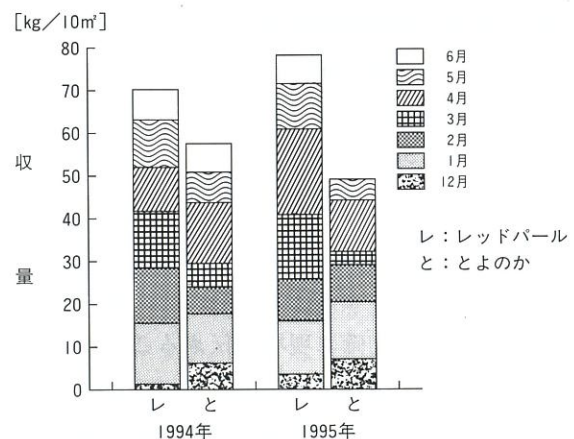


図1 7g以上の月別可販果収量

栽培上の留意点

- ◎苗はクラウン径で8～10mm程度の小さめがよい。
- ◎ジベレリン処理は不要であるが、電照は必須である。
- ◎着果が多いため摘果が必要である。(園芸研究部)

9月中旬熟期の極早生温州を選抜

本県の極早生温州の熟期は10月上旬で、最も早い宮崎県に比べて20日も遅くなっています。市場での有利性や労働力分散から、産地では9月中下旬から出荷できる品種育成へ大きな期待があります。

そこで、カンキツの珠心胚実生に現れる変異を利用して、着色と減酸が早い新品種の育成に取り組んできました。その結果、今田早生の珠心胚実生から9月中旬頃から出荷できる有望な系統を選抜しました。

その特性は次の通りです。

- ◎樹勢は現在栽培されている品種より旺盛で、豊産生である。
- ◎果実肥大は他の品種ほど大果になりにくく、M果中心である。



- ◎着色は9月中旬から始まり、今田早生や日南1号より7～10日早い。
- ◎浮皮果の発生は今田早生と同様に多い方であるが、糖度は11%前後で今田早生よりも高くて甘い。
- ◎果実の減酸は乾燥する園地でも早く、9月下旬には1%以下になり、程良い酸味で、食味は良い。

(常緑果樹研究室)

認定農業者の認定に関する事例調査結果

認定農業者制度は、プロの経営をめざす、意欲的な農業経営者に対して、低利融資などの支援措置を重点的に講じていく制度です。

この度、専門技術員室では、制度の啓発推進のために、県内で認定に積極的に取り組んでいる5町(倉橋町、豊町、油木町、神石三和町、高野町)の実態調査と神石郡内の認定農業者に対するアンケート調査を実施しました。

調査の結果、5町の基本的な考え方は次のように整理できます。

- ①認定農業者を地域の中核的担い手として位置づけ経営改善が実現出来るよう行政的支援を行い、農業振興の中心的役割を果たすリーダーとして、また、高度の経営ができる体制づくりを行っている。
- ②認定に当たっては、農業者自らがやる気を示し、自己の経営確立と地域の人達との連携により、地域農業の活性化を志す意欲ある農業者を認定している。

③農業経営改善支援センターが認定農業者の経営改善計画が達成出来るように支援することとしている。

一方、認定農業者制度をどこで知ったかについては、75%が「役場を通して」と回答し、市町村の積極的な取り組みが重要なことを示しています。認定農業者を希望した理由は、「単に資金を借りるため」だけでなく、「農業で自立することを再認識するため」、「地域の協力を得て農業経営改善を図るため」及び「関係機関の指導を充実してもらうため」など多岐にわたっています。

認定農業者の希望は、「資金制度の充実」、「地域の協力を得る」が半数を占め、経営基盤の確立や地域営農の体制づくりの必要性を訴えている。

今後「食とふるさと広島2001」運動の一つの柱である「地域営農のしくみづくり」を関係者が一丸となって推進するなかで、認定農業者の認定と育成が強く望まれます。

(専門技術員室)

ひろしまの在来作物(1)——小粒で珍しい走島(福山市)の「ぶどうあずき」——

鞆港から船で約40分、備後灘に浮かぶ小さな小島、走島に昔から栽培されている珍しい小豆があります。土地の人は「ぶどうあずき」と呼んでいます。その名のとおおり、ブドウのマスクット色をした小粒の「あずき」で、1000粒の重さは僅かに37g余りです。小粒普通あずきが100～140gですから、その程度がわかります。味は普通あずきに比べると、少し落ちるとのことです。現地では粥に入れて食べています。類似のあずきをご存じの方、古くから作られている作物や珍しい作物をご存じの方は情報をお寄せください。

(農業ジーンバンク：沖森 當)

広島県農業ジーンバンクが収集した貴重な県内遺伝資源をシリーズで紹介いたします

◇刊行物案内

- 気象情報利用の手引：農業技術センター、8年8月発行

内容 ①農業技術センターで解説する予報の内容 ②広島気象台発表の気象予報
③気象災害防止関係情報 ④気象用語の解説及び一般知識

◇会議・研究会・行事

- 講演会：「環境保全型野菜栽培における土づくり」 東京農業大学土壌学研究室 後藤逸男教授
12月12日(木)、13:30～16:00；農業技術センター本所講堂、聴講自由
講演内容 ①野菜生産地における連作障害対策としての輪作の効果
②土壌の実態からみた有機農法の限界とEMほかしの効用
③環境保全型の野菜栽培を推進するための土づくり
- 職場研修：「農薬の安全な使い方」 広島県病害虫防除所 所長 本実慈郎
12月20日(金)、13:00～15:00；農業技術センター

◇農業技術センター 12～1月見どころ案内

- 園芸研究部：施設の有効利用を図るため、回転ベッドを利用したイチゴを、コジェネシステム(電気、熱併給装置)で栽培しています。
- 生物工学研究所：様々な培養植物が育っています。バイオに興味のある方はご来所ください。
- 果樹研究所：柑橘研究室(三原市木原町)では晩生柑橘「キヨポン」の結実状況が、本所(安芸津町)では落葉果樹の剪定の状況がみられます。
※この他、視察、見学等は常時、全所で受け付けています。

農業技術センター(東広島市)で観られる野鳥たち(2)

視界のよくなった圃場ではツグミやタヒバリ、カシラダカが餌を啄んでいます。ほかにも嘴の根元が泥で汚れたような色をしたミヤマガラスの群れに混じって、白黒のコクマルガラスや蝶のように舞い飛ぶタゲリが観られるかも。木枯らしの吹く電線にはニューナイスズメの群れや綺麗な衣装のジョウビタキ。鋭い目で餌を探すモズの高鳴きも冬の風物です。

(生工研：勝場)

発行 広島県立農業技術センター
(企画情報部)

☎739-01 東広島市八本松町原6869
TEL 0824-29-0521 FAX 29-0551

編集だより

圃場の作物は寂しくなりましたが、施設内は相変わらずの賑やかさです。職員は試験成績の取りまとめで、忙しい時期になります。ご意見をお寄せください。

組織と所在地

農業技術センター 本 所	(総務部、専技室、企画情報部、作物研究部、園芸研究部、環境研究部、生物工学研究所細胞工学研究室、同育種研究室)		
〃	高冷地研究部	☎731-21 山県郡大朝町大朝4413	TEL 0826-82-2047 FAX 82-3604
〃	島しょ部研究部	☎722-21 因島市重井町宮ノ上	TEL 08452-5-0004 FAX 5-0738
〃	果樹研究所	☎729-24 豊田郡安芸津町三津2835	TEL 0846-45-1225 FAX 45-1227 (管理課、常緑果樹研究室、落葉果樹研究室)
〃	〃 柑橘研究室	☎729-03 三原市木原町643	TEL 0848-68-0131 FAX 68-0181